

インターバンクの声（2014 年 8 月 14 日）

お盆休み真只中で、通勤電車も普段に比べてずい分空いており、運が良ければ座れることも可能な週になっている。為替相場でも事業法人を中心に休暇中の企業が多いことから、オーダー以外には突然飛び込んでくるような大きな予約もなく、基本的には静かな値動きが続いている東京市場だ。それでも昨日は、いつもは特に注目することもない国内総生産 (GDP) の発表があり、結果次第では 9 月や 10 月の日銀金融政策決定会合で追加緩和を実施する可能性が高くなるとの見方が広がっていた。結果は年率で 7 % 以上のマイナスになるのではとの予想に反し、それほど落ち込みとはならず、追加緩和は消えたとの見方から相場もこう着状態に戻ってしまった。日本の GDP には反応が薄かった為替相場だったが、昨日の為替市場で盛り上がりを見せたのはイングランド銀行（英中央銀行）のインフレ報告とニューヨーク時間に発表された 7 月の米小売売上高だった。特にイングランド銀行のインフレ報告は、先週あたりから利上げの開始時期が早まるような内容が記されているのではとの期待が強くなっていたため、内容の確認ができるまでの短い時間にポンドは上下に激しく動いてしまった。結果的には利上げ時期の開始予想が後ずれしたため、ポンド相場はインフレ報告発表前から 100 ポイント以上も下落したレベルでの取引が続いている。米小売売上高は予想を下回る内容にドルは対主要通貨で値を下げたが、株価の堅調さなどから短時間で元に戻った。依然としてトレンドを形成するには至っていない為替相場だが、経済指標やイベントに対する反応が大きくなっているのを見ると、そろそろレンジ相場も終わりに近いかも知れない。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。